

適正な温度管理で健苗育成を！

採種ほ周辺農家のハウス巡回を強化し、ばか苗病の早期発見に努めましょう！

1 育苗管理

(1) 温度管理

○ 生育ステージ別の温度管理は次の表を参考にこまめに行う。

稚 苗 (育苗日数20~25日)		中 苗 (育苗日数35~40日)	
出芽期 (48時間)	昼夜とも 30~32℃	出芽まで	32℃を越えないように
緑化期 (1.5葉期まで)	昼20~25℃、夜10~12℃	播種後、20日間	5℃~25℃を保つ
硬化期 (15~20日間)	日中温度を上げすぎず、夜5℃以上	2.5葉期以降	ハウス解放(寒い日以外)

(2) 灌 水

- 出芽完了後は、覆土の持ち上がりを落とす程度の灌水とする。
- 灌水の時間は朝方(室温、地温の高くなる前)に行う。

(3) 追 肥

- 2葉期とその1週間後(3葉期頃)の計2回行う。(稚苗では1.5葉期頃に1回)
- 液肥で行い、施肥後真水で灌水し、苗に付着した肥料を洗い落とす。(窒素1g/箱)
 硫 安 : 1箱当水500ml、硫安5g(100箱当水 50L、硫安 500g)
 液肥2号 : 1箱当水500ml、液肥2号10ml(100箱当水 50L、液肥2号 1L)

(4) いもち病防除

- ハウス内外とその周辺には稲わら、籾がらを絶対に置かないこと。
- 一般用苗と同ハウスで管理する場合は、次の薬剤を使用する。

薬 剤 名	散 布 時 期	濃 度・散 布 量
ビ ム ソ ル	緑化始期 (べた張り除去後すぐ)	500倍液を500ml/箱、かん注する。

(5) 育苗ステージ別の注意点

～出芽期～

- 加温出芽 : 出芽長1cmを目標とし、30~32℃で管理する。
- 無加温出芽: 出芽長0.5cmを目標とし、出芽までの温度は32℃を超えないようにする。
 もみ枯病発病の発生を防ぐため、被覆期間を過剰にせず、再被覆は行わない。

～緑化期～

- 出芽から緑化に移る際に、急激な環境変化に注意する。
- 葉数1.5葉頃まで育成し、第1葉鞘長は稚苗で3.0~3.5cm、中苗では2.0~2.5cmとする。

～硬化期～

- 硬化期間は夕方葉先につゆを結ぶ程度の土壌水分を保つようにする。
- 移植5~7日前から降霜の心配のないかぎり昼夜ともハウスは開き、苗の充実を図る。

2 苗代巡回

- 育苗期用看板を育苗ハウスの前面に掲示し、必要項目を適時記載すること。
- 育苗期に、採種ほ用ハウス及び周辺農家ハウスを巡回する。
- 採種ほ周辺農家のハウスではばか苗病が見つかったら、罹病苗を抜き取り処分する前にJAに連絡すること。(確認後、対応策を検討します)

3 本田作業(田植え前)の準備

(1) ほ場の選定

- 周辺ほ場の過去の病害発生状況等を考慮し、リスクの少ないほ場を選定すること。
- 前年に雑草や病害が多かった採種ほ場での栽培は避けること。

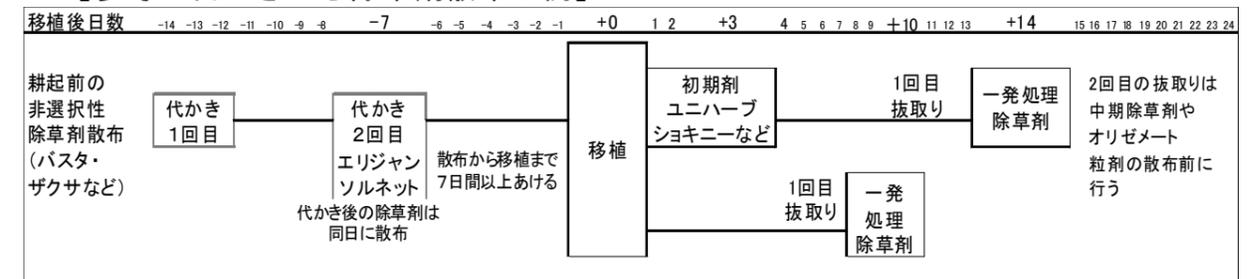
(2) 施肥設計

- 倒伏を防ぐためにも土壌条件を十分に把握した設計とする。
- 基肥は、一般栽培に比べて減肥する。

(3) こぼれ糞対策

- ほ場審査では漏生苗の指摘が依然として多い状況である。1回目の代かきをした後に一週間してから2回目行うと同時に除草剤を散布しこぼれ糞対策を徹底すること。

【参考：代かきから除草剤散布の例】



4 気象情報

気象庁の1か月予報(3/30~4/29)によると

- ・暖かい空気に覆われるやすいため、気温は高い見込み。
- ・平均気温は、高い確率が70%。日照時間は、ほぼ平年並みとなっている。

5 病害虫の発生予察情報

秋田県病害虫防除所が発表(3月22日)した4月の主な病害の発生予報は次のとおり。

病 害 虫 名	発 生 量
苗いもち	平年並 (前年並)
苗立枯病	やや多い (前年よりやや少ない)
ばか苗病	やや少ない (前年並)
もみ枯細菌病	多い (前年並)

たね屋のひとりごと

ハウス内は天候によって温度変化が激しいので換気には十分注意を！
 ※ ハウス内の温度は、苗のすぐ上で測定してください。